

第 2 次小牧市学校教育 I C T 推進計画（案）について

計画名	計画期間	策定日
小牧市学校教育 I C T 推進計画	令和元～3 年度（3 年間）	平成 31 年 2 月

1 目 的

平成 3 1 年 2 月に策定した小牧市学校教育 I C T 推進計画は、今年度が計画期間の最終年度となるため、昨年度、国の G I G A スクール構想への対応のために追補した第 6 章も含めて、第 2 次推進計画として見直しを実施する。

2 主な見直し内容**第 1 章 策定について**

- ① S D G s の位置づけについて記載する。
- ② 計画期間を上位計画である「小牧市教育振興基本計画」とあわせて、令和 4～8 年度の 5 年間にする。
- ③ G I G A スクール構想等、国及び県等の最新動向を踏まえた時点修正を行う。

第 2 章 小牧市の現状と課題

- ① I C T 環境の時点修正を行う。
- ② 最新の教職員アンケート結果、端末の持ち帰り検証結果等を反映する。

第 3 章 基本方針

- ① こどもの学習プロセスにおける I C T の活用
 - ・ I C T を学びの道具として活用し、収集した情報を関連付けたり整理・分析したりすることで、課題解決に向けて情報を活用できる力を育てる。
- ② 情報モラルの育成
 - ・情報モラルの育成において、教科等で繰り返し指導したり、こども自身がタブレットの使用ルールづくりに参画したりして、学校教育全域にわたり体系的に取り組む。
- ③ I C T の効果的な活用
 - ・学習者用デジタル教科書の活用を研究する。
 - ・小テストなどの成績処理だけでなく、日々の授業のふりかえりや家庭学習で取り組むドリル教材などの学習履歴を蓄積し、適切に活用する。
 - ・他校のこどもをはじめ多様な人たちとつながる学びを推進する。
- ④ 特別な支援を要するこどもの教育における I C T の活用
 - ・適応指導教室及び日本語初期教室において、I C T の活用を進める。

- ・病気等により長期間出席できないこどもと、ICTを活用して教室・担任とつながる仕組みについて研究する。

⑤ 教員研修の充実と地域への情報発信

- ・ICT支援員を継続的に配置するほか、タブレットPCの持ち帰りにあたって、保護者等からの問合せに対応方法を検討する。
- ・学校行事や各種会合について、保護者や地域の方が参加しやすいように、ICTを活用した開催方法について研究する。

⑥ 校務事務における活用

- ・欠席連絡・連絡帳など、保護者-学校間の連絡方法のデジタル化に取り組む。
- ・会議資料等のペーパーレス化を一層推進するとともに、電子決裁システムの導入について研究する。

⑦ クラウドサービスの利用を前提としたICT環境の整備

- ・費用対効果を踏まえて、新たなICT環境の整備を行うため、ICT機器及びソフトウェア等の試行検証等を行うパイオニア校（先進校）を設置する。
- ・各種クラウドサービスを快適に利用できるよう、アクセスポイントの増設及び速度向上に取り組む。
- ・最新の技術動向を考慮し、高速で安定した通信環境の構築について研究する。

⑧ 非常時・災害時におけるICTの活用

- ・学校と家庭をつなぐオンライン学習等により、学びを保障する。
- ・迅速かつ正確に家庭に情報を伝達したり、家庭及び児童生徒の情報を収集したりするなど、情報発信・情報収集の手法について研究する。

第4章 具体的な取組み

- ・計画期間内の具体的な取組み
- ・ICT機器の整備状況及び更新予定年度を記載する。

第5章 計画の進捗管理

次の3指標を追加する。

- ・1日1回以上タブレットPCを活用しているクラスの割合
- ・1日1回以上授業支援ソフトを活用する教員の割合
- ・週1回以上デジタルドリルソフトを活用する教員の割合

3 今後の流れ

- ・教育委員会の議決を得て、令和4年3月に策定する。